

資 料

下仁田ローム層の砂粒組成

Grain constitution of the Shimonita Loam Group
in Shimonita-machi, Gunma Prefecture, Central Japan

関東火山灰グループ*
Kanto Ash Layers Research Group

はじめに

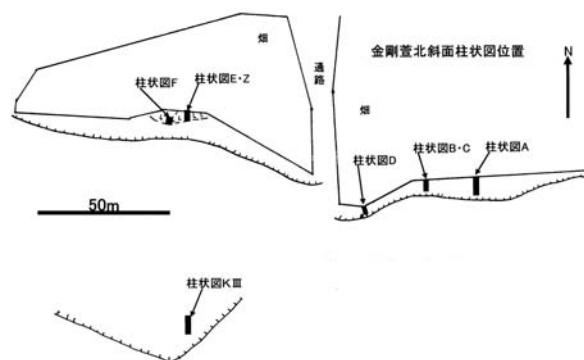
関東火山灰グループ(2009)は、群馬県甘楽郡下仁田町の金剛萱(こんごうがや)北斜面を模式地として(第1図)、秩父帯を直接おおい黒色火山灰土層におおわれるローム層を、下仁田ローム層とした。各地点の柱状対比から層序を組み立て(第2図、第3図)、さらに、ローム層の風化の程度と砂粒組成の特徴から、下位より、下部層、中部層、上部層に区分した(第4図)。また、層位と砂粒組成の特徴から広域テフラを認定して下仁田ローム層と周辺地域のローム層との対比をおこなった。その後2010年には、下仁田ローム層下部層の調査をおこない、新たな層準のローム層を認定した(関東火山灰グループ2013)。

これまでに明らかになった下仁田ローム層の概要

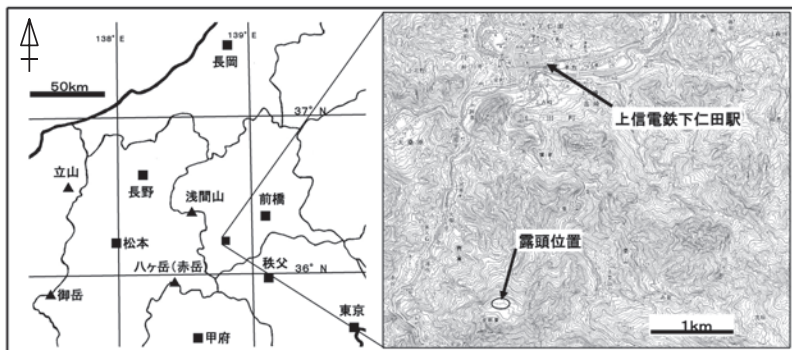
と砂粒組成の分析結果(第5図、第6図)を、資料として報告する。

下仁田ローム層の概要

下仁田ローム層下部層は、暗褐色を呈し著しく風



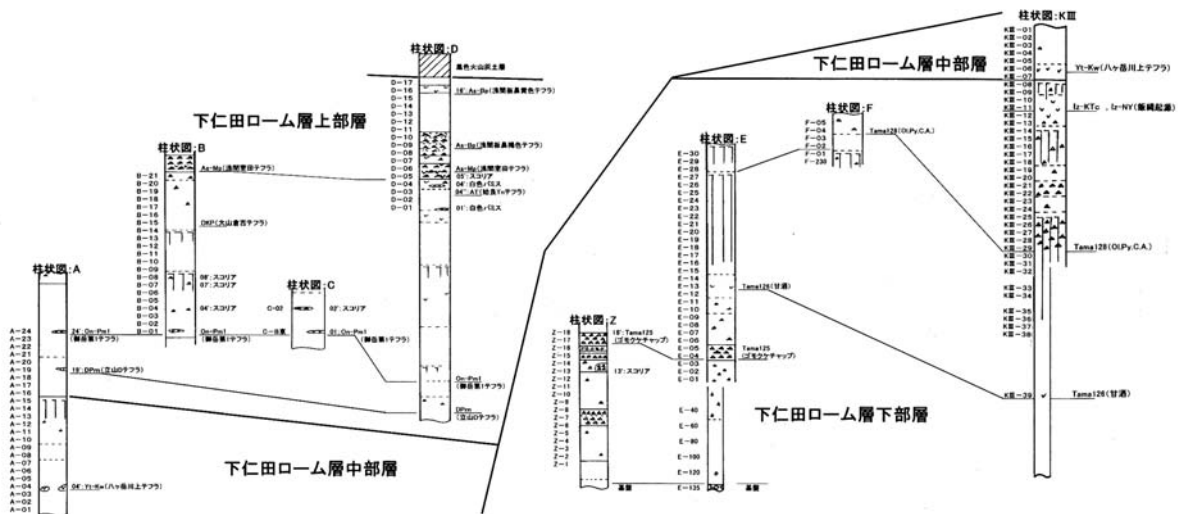
第2図 金剛萱北斜面の柱状図位置図



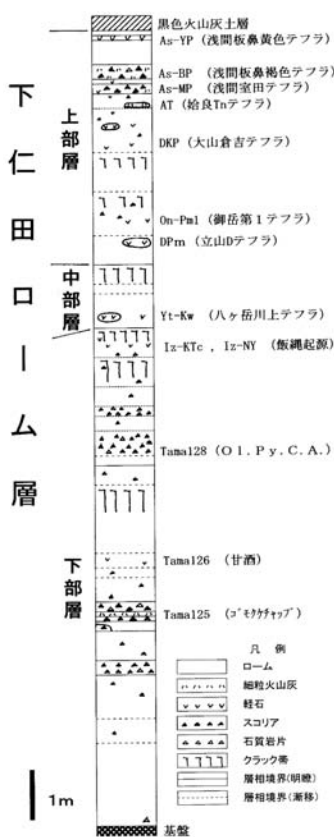
第1図 露頭位置図

国土地理院1/25000地形図「下仁田」を使用

*新井 瞬, 新井豊国, 新井裕子, 新井 瞭, 一色洋佑, 上原節子, 上原拓真, 小川政之, 加藤定男, 加藤禎夫, 小林忠夫, 小林雅弘, 駒井 潔, 小松 恵, 斉藤尚人[○], 佐藤博子, 正田浩司, 関谷友彦, 竹本弘幸, 寺尾真純, 中村正芳, 萩原正朗, 矢野めぐみ, 渡辺秀男 ([○]執筆責任者: 連絡先 〒285-0037 千葉県佐倉市本町141-3)



第3図 下仁田ローム層の柱状対比図 記号の凡例は、第4図と同じ



第4図 総合柱状図

呈し、上部層に比べて斜長石の割合が少なく鉄鉱物の割合が多い。佐久ローム層中のテフラであるYt-Kw (Yt-Kw: 大石・鈴木 2004, オレンジパミス: 八ヶ岳団体研究グループ 1988b) が狭在する。

化している。砂粒成分の割合が少なく、カンラン石を含んでいる。多摩Iローム層のテフラであるTama125 (ゴモクケチャップ: 関東火山灰グループ 2001), Tama126 (甘酒: 関東火山灰グループ 2001), Tama128 (Ol. Py. C. A.: 八ヶ岳団体研究グループ 1988a), 飯縄上樽テフラ (Iz-KTc) および飯縄西山テフラ (Iz-NY) が狭在する。

下仁田ローム層中部層は黄褐色を

下仁田ローム層上部層は淡黄褐色を呈し、広域テフラであるDPm (Tt-D: 町田・新井 2003, DPm: 中谷 1972), On-Pm1 (御岳第1テフラ), DKP (大山倉吉テフラ), AT (始良Tnテフラ), As-MP (浅間室田テフラ), As-BP (浅間板鼻褐色テフラ), As-YP (間板鼻黄色テフラ) が狭在する。テフラの名称は、ことわりがない場合は、新編火山灰アトラス (町田・新井 2003) にしたがった。

今後の課題

下仁田町は関東甲信越地域のほぼ中央部にあたり、ローム層中に狭在するテフラの層位を確認し、各地のローム層との対比をおこなうことは、関東甲信越地域の第四系の層序を確立するうえで重要である。

下仁田ローム層と鎚川流域の段丘との関係や、金剛堂で表採された旧石器遺物の出土層位、下部層の未発見層準についての再検討は、今後の検討課題になっている。

謝辞

地主の泉 英明さん、下仁田町自然史館、歴史館をはじめとする下仁田町役場関係のみなさん、下仁田自然学校のみなさんには調査の便宜をはかっていただきました。こころからお礼を申し上げます。

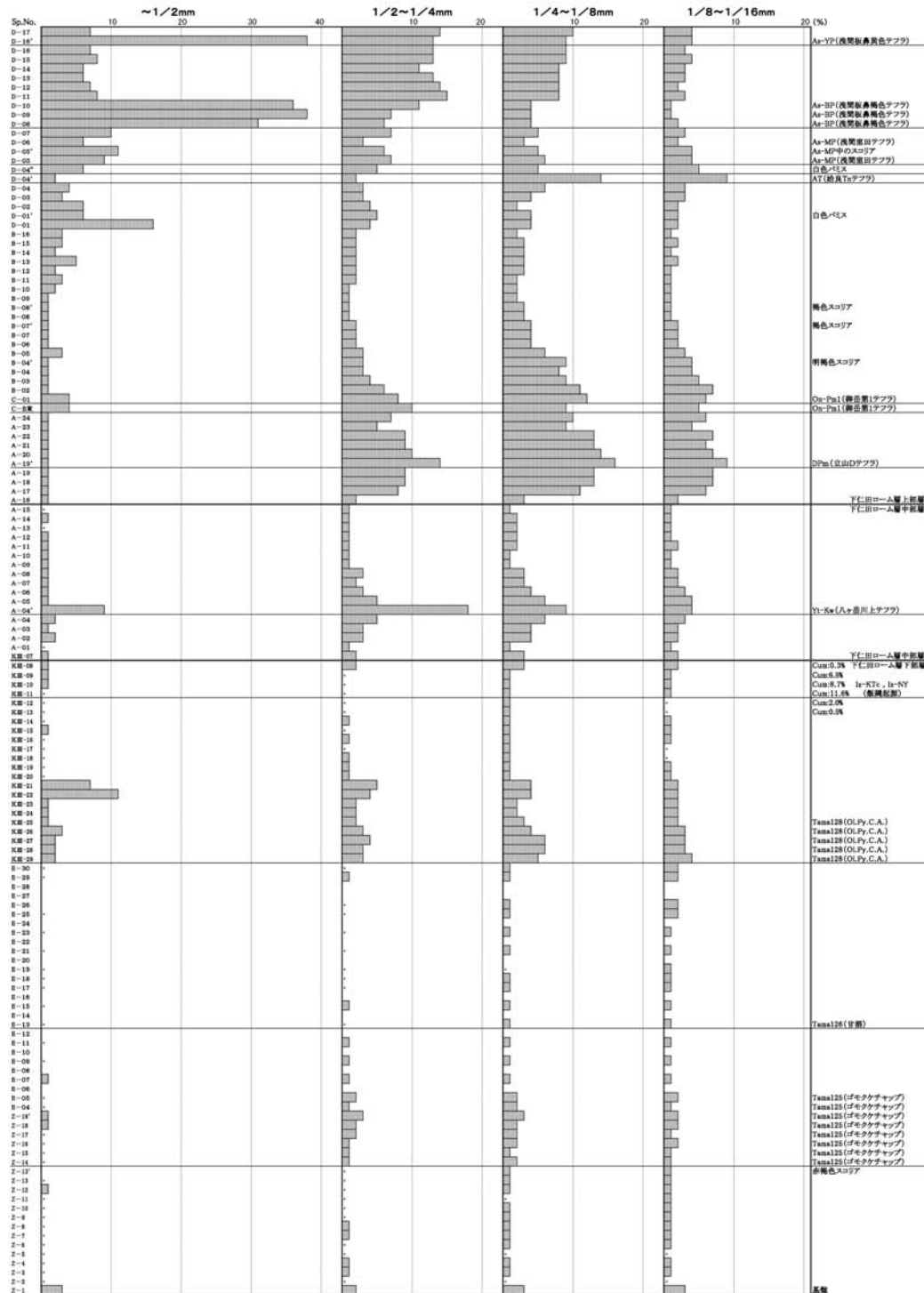
下仁田ローム層の砂粒組成

文 献

関東火山灰グループ (2001) 多摩 I ローム層の鉱物組成と
テフラの対比. 地球科学, 55, 23-36.

関東火山灰グループ (2009) 群馬県甘楽郡下仁田町でみつ
かった下仁田ローム層の砂粒組成. 群馬県立自然史博物
館研究報告, 13, 87-93.

関東火山灰グループ (2013) 群馬県甘楽郡下仁田町でみつ
かった下仁田ローム層の砂粒組成 (その2). くりっぺ,



第5図 下仁田口一ム層の粒度組成 +は0.5%未満

関東火山灰グループ

72号別刷, 1-4.

町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラスー日本列島とその周辺. 東京大学出版会, 東京, 336p.

中谷 進 (1972) 大町テフラとテフロクロノロジー. 第四紀研究, 11, 305-317.

ハヶ岳団体研究グループ (1988a) ハヶ岳山麓の中部更新統. 地団研専報, 34, 53-89.

ハヶ岳団体研究グループ (1988b) ハヶ岳山麓の上部更新統. 地団研専報, 34, 91-109.

